

## まえがき

現代において、さまざまな社会問題が頻繁に起こっています。技術の進歩はそれなりにあつても、どこか行き詰まりのようなものを感じている方も多いのではないのでしょうか。この状況を変えていくには、枝葉のことをしていてもキリがありません。すべては問題の根本から変えるしかありません。ではその根本とは何なのか。その答えが、私にとっては「自分」と「コミュニティ」でした。他人や社会を変えようとしても一人の力では難しく、きつかけを与えることはできても他人を変えることはできません。自分が変わろうと思わなければ、変わることはできないからです。他を変えようとする前に、まずは一人ひとりが自分を変えること。その一人ひとりの変化が、他人を変え、社会を変える原動力にもなつていきます。自分はどうのように在りたいのか。それを明確にすることで、人生も自ずと変化していきます。

私は環境保全の農業や、食育・環境教育などの教育活動もしてきましたが、農業や教育においても今起こっている問題の根本を突き詰めていくと、暮らしの根幹となるコミュニティから変えていく必要があるということに辿り着きました。コミュニティという母体があり、それを維持するための手段や表現方法として食や農、教育、福祉、エネルギー、経済などがあります。まずどのような環境、コ

コミュニティで私たちは暮らしたいのか。それを一度、一から考え直してみる時期に来ているのかも少しありません。日本では今まで国や企業がこれらの面倒をある程度見てくれたので、自分たちでコミュニティを一からデザインしていくという発想がなかなか生まれませんでした。しかし、海外ではエコビレッジ活動など、市民レベルで自分たちの納得のいく暮らしを自由に創造して、実践している事例が増えています。問題だらけの今の社会を嘆いて、批判していても現実が変わることはありません。批判することにエネルギーを注ぐのも一つの選択肢ですが、すべては本来自分たちで、自由に創り出すこともできます。

本書では、すべての核となる「ジブン」をテーマに、ジンセイの創りかたなど自己啓発的なことにもふれています。それだけでは意味がありません。実際に行動を起こして、実践していかないと自分も社会も変わりません。具体的にどのようなことがこれからの時代にできるのか、その可能性を今回は農や教育、コミュニティに絞って私なりに実践して学んできたことを簡単にですがまとめてみました。昔から日本人は自然や農を通じて、生命のリズムや尊さを感じていました。しかし、自然から切り離された現代ではその感覚は薄れています。それがジブンとの乖離も生み出しています。方法次第で多様なことが実現できる農の可能性は、これからの時代において欠かせないものだと思信しています。また、子どもの頃に受ける教育、両親や学校からの影響は大人になっても色濃く残るものです。

どのような教育をこれからの社会では選択していくのか。多様な教育の在り方についてもいくつかの可能性を挙げておきました。教育といえば子どもと思われがちですが、今の社会を創っている大人がどのように変わっていくのか。それが教育やコミュニティにも大きな影響を与えます。そして、社会を変えたくても、個人でしているは大きなインパクトにはなりません。そうはいつても、国や社会を動かすようなことはなかなか大変なことです。そのため、まずは数十人で意識ある仲間が集い、コミュニティ単位で動いていくこと。これが一つのきっかけとなります。世界ではすでに動き始めていますが、日本は残念ながら一過性のイベントばかりで、まだまだ生活に根差した活動は遅れているのが現状です。

今の社会や自分に少しでも違和感や疑問を抱くのなら、ぜひその答えを自分なりに考え、求めてみてください。そして、一人ひとりが何を感じて、何を選択するのか。その集合選択によって、未来の社会が創られていきます。なんとなく生きて、社会がどうなろうと自分は関係ない、自分には何もできないと思うことも選択肢の一つですが、それでは力をもった少数派の人たちにすべてが左右されてしまいます。狭い世界にいると価値観や考え方も狭くなりがちですが、少し勇気を出して、今いる世界から飛び出してみると世界はもっと広いのだと実感できることもあります。人生は計り知れないほど自由で、創造的で、楽しいものだということにも。本当の豊かさや幸せは本来、自分で表現してい

くものです。国や企業、社会や親が決めるものではありません。その幻想に気が始めた人が、私の周りでも動き始めています。ゲームを購入して誰かにプレイをすべて任せる人はいないように、自分がプレイヤーとなってゲームをする方が時には痛みもあるかもしれませんが、ワクワクして楽しいものです。